

BCG 予防接種について

予防接種の対象となる病気について

結核は結核菌の感染で起こる病気です。わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ2万人を超える患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力(免疫)は、お母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力(免疫)が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

接種方法

接種回数・・・1回

接種期間・・・生後12ヶ月(1歳)に達するまで

副反応について

接種後10日頃に接種局所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後4週間ごろに最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3ヶ月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力(免疫)がついた証拠です。自然に治るので、包帯をしたり、バンソウコウをはったりしないで、そのまま清潔に保ってください。ただし、接種後3ヶ月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師に相談して下さい。

副反応としては、接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大変大きく腫れたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみが出る場合があります。このようなときは医師に相談して下さい。

またお子さんが接種前に結核菌に感染している場合は、接種後10日以内にコッホ現象^{※1}が起こることがあります。通常の副反応における接種局所の様相の発現時期(おおむね10日前後)と異なり、接種後数日間のうちの早い段階で発現します。コッホ現象と思われる反応がお子さんにみられた場合は、すみやかに医療機関で受診して下さい。この場合、お子さんに結核をうつした可能性のある家族の方も医療機関を受診するようにしましょう。

^{※1}コッホ現象…接種局所の発赤(赤くなる)・腫脹(はれる)・及び接種局所の化膿等をきたし、通常2週間から4週間後に消炎、癬痕化(きずあとになる)し、治癒する一連の反応。